

平成26年度 学校関係者評価委員会資料

学校法人経専学園
 経専北海道保育専門学校
 学校関係者評価委員会

1. 開催日時

平成27年9月3日（木）14時00分～15時00分

2. 開催場所

経専北海道保育専門学校

3. 出席者

	選任区分	人数	役職名
外部関係者	企業関係者	1名	保育園園長
外部関係者	地域住民	1名	学校指定女子寮管理者
学校側	学校教職員	3名	部長、部長代理、広報事務課長

4. 学校関係者評価委員会 次第

- ① 開会
- ② 部長挨拶
- ③ 平成26年度における自己評価の報告
- ④ 討議・意見交換
- ⑤ 閉会

5. 討議・意見交換

- ①自己点検・評価報告及び討議・意見交換

(1) 教育理念・目標

(1) - ①理念・目的・育成人材像は定められているか
学園理念である「学生第一主義」を念頭に置き、目的を「教育基本法及び学校教育法の精神に則り、保育業界に携わる有能な人材を育成するとともに、人格教養を身につけた社会人を育成することによって、保育業界の発展に寄与することを目的とする」としており、これらをカリキュラムなどの教育内容に反映させている。
(1) - ②学校における職業教育の特色は何か
現場に即応できる人材の育成を目標とし、知識面の習得だけでなく、実技面を重視したカリキュラムを組んでいる。
(1) - ③理念・目的・育成人材像・特色などが学生・業界関係者・保護者等に周知されているか
ホームページ、ガイダンス、各種説明会、年3回の保護者への通知等で周知を図っている。

○課題

・特になし。

○今後の改善方策

・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

・前年度から特に変更もなく、意見はありませんでした

(2) 学校運営

(2) - ①目的等に沿った運営方針が策定されているか
設置法人が定める運営方針に基づき、当該専門学校の方針、目標、組織体制を定めている。運営方針は毎年4月に実施される、学園全体会議にて発表し、周知徹底されている。
(2) - ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか
全体会議にて示された重点課題目標に沿って、具体的な実施計画を策定している。毎月の重点計画会議にて重点課題項目毎に達成状況の報告及び未達成項目についての具体的取り組みの報告を行っている。
(2) - ③運営組織の意思決定権は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
就業規則及び業務分掌表にて明確化されている。毎週行われる教務会議及び毎月行われる重点計画会議にて全職員が情報を共有し、決定事項については原則、会議にて決定する。

○課題

- ・特になし。
- 今後の改善方策
 - ・特になし。
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特にありませんでした。

(3) 教育活動

(3) - ①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
卒業までの授業科目計画及びシラバスが配布されている。
(3) - ②教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか
専修学校設置基準に定められた年間800時間以上、課程の修了に必要な総時間数1,700時間以上を確保しており、学則に明記している。
(3) - ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
カリキュラムは、保育士や幼稚園教諭等の資格取得の必須科目（法的に定まっている）と業界のニーズを踏まえた実技・実践科目から成っている。
(3) - ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
実技・実践科目のカリキュラムは、保育現場の意見を取り入れながら見直しを行っている。教育課程編成委員会を2回開催し、現場のニーズを確認しながらカリキュラム編成を行った。教育方法については、前後期に教職員による授業参観、8月に教職員同士の模擬授業を実施している。また、幼稚園と養成校の懇談会や全国保育士養成協議会の研修に参加し、定期的且つ組織的に工夫、研究を行っている。
(3) - ⑤授業評価の実施・評価体制はあるか
学生が科目単位で授業を評価する授業満足度アンケート（5点満点）を年2回実施し、教員の教授レベルの確認と評価を行なっている。平成25年度の平均値4.79に比べ、平成26年度は平均値4.88と向上した。

○課題

- ・これから大きく変化していく保育業界に対応していくため、カリキュラムは常に見直しと改善を行う必要がある。

- ・2年課程（こども学科）と3年課程（こども未来学科）の特色を明確にする具体的カリキュラムの編成。

○今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会で、現場のニーズを把握し、それに対応できるカリキュラムを検討していかななくてはならない。
- ・授業の満足度は、学生から高く評価されているが、これに満足することなく教職員が個々にしっかりと前年度を振り返り次年度につなげて行き、更に高い満足度を得られるようにする。
- ・平成28年度から行う、こども未来学科の新カリキュラム（保育実践力養成）実施に向けて、学校近隣保育施設との連携強化。
- ・こども学科保育士コースのカリキュラムを充実させるため、教育課程編成委員会で委員の皆様にご意見を伺い構築していく。

○各評価委員からの意見・指導

- ・従来の学科はもちろん、新たな保育士コースの内容の充実を図ってほしい。
- ・教員の年齢が比較的若いので、学生にとっては良い環境と思われる。

（４）学修成果

（４）－①就職率の向上が図られているか

就職率を①専門職決定率（学んだ分野への内定者数）②全体決定率（就職希望者に対する就職率）③対象外率（就職を希望しない人数）に分類し、それぞれに目標を設定しながら学生の就職活動を支援している。平成26年度に於いては全ての項目で目標を達成した。①専門職決定率98.9%(就職決定者175名中専門職173名決定)、②全体決定率100%(卒業生175名全員が就職希望し、175名全員決定)、③対象外率0%

（４）－②資格取得率の向上が図られているか

資格取得率の推移を分析し、資格取得率の向上を図る取り組み（単位修得を目的とする取り組み、単位実習をクリアするため取り組み）を検討し実施している。平成26年度の資格取得率は、こども学科100% こども未来学科97.4%となっており、平成25年度に比べ、こども学科は3.6%向上したが、こども未来学科は0.5%低下した。特にこども未来学科の幼稚園教諭免許取得率が良くなかった。

（４）－③退学率の低減が図られているか

前年度の実績を基に、毎年目標を設定しながら退学率低減に取り組んでいる。平成26年度は14名の目標でスタートしたが、結果19名と目標を達成することができなかった。進路変更、経済的理由、病気等による理由は例年と同様だが、交友関係の拗れから退学に至るケースも増えている。担任による個別面談、毎週の職員会議での情報共有などの取り組みは行ってきたが結果に結びつけることは難しかった。

○課題

- ・1年次の退学が圧倒的に多いため、1年次の対応が課題となる。
- ・保育所実習はほとんどの学生がクリアできるが、教育実習で躓くケースが多い。教育実習は最終学年で実施するため、やり直しが難しく資格未取得につながってしまう。

○今後の改善方策

- ・1年生は特に早くから面談を実施し担任との信頼関係を構築するとともに、担任だけでなく学年全体で情報を共有し、学校全体でも毎週の職員会議で確認していく。気になる学生については、高等学校にも高校時代の様子などを確認し、対応方法を検討する。
- ・実習に出る前の準備をしっかりと行い、時期尚早と判断した場合は実習時期の変更も視野に入れ学生指導を行う。気になる学生は実習期間中のフォローを早めに実施する。
- ・現在は求人が多く、学生にとってはとてもありがたい環境ではあるが、学生が就職に対する気持ちを維持し続けられる指導が必要である。

○各評価委員からの意見・指導

- ・4週間連続の実習は、良い面と、そうでない面がある。園により特徴があるので、ミスマッチをなくすため事前に実習園をよく知る必要がある。
- ・就職したあとすぐに退職されるのは現場としてとても困る。事例を伝えたり、卒業生のお話を聞かせたりし、仕事に対する強い気持ちを持たせてほしい。
- ・求職中の卒業生を把握し、紹介してもらえるシステムがあると助かる。

(5) 学生支援

(5) -①進路・就職に関する支援体制は整備されているか

クラス担任、就職担当者によるダブル支援体制をとっており、全ての学生を専門職に就職させることを目標にしている。また、過去の就職試験内容が閲覧可能となっており、受験先に即した個別面接指導も実施している。

(5) -②学生相談に関する体制は整備されているか

クラス担任制を導入して学生からの相談に対応している。また、事務職員を含む学校内の全ての教職員が積極的に学生に対して声がけを実施し、担任以外でも気軽に相談できる環境を目指している。これ以外にも、学校内にカウンセリングルームを開設している。

(5) -③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

学校独自の奨学生制度（入学時、進級時）や学費分納制度、経専学園学費応援制度など複数の支援体制にて対応している。

○課題

- ・経済的理由で学園の支援体制ではどうすることもできず、やむを得ず退学をする学生が年度末に発生する。

○今後の改善方策

- ・国の支援制度の充実を期待する。

○各評価委員からの意見・指導

- ・国や自治体での支援制度は、調べないとわからないこともあるので、常にリサーチすることが必要である。

(6) 教育環境

(6) -①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

個室のピアノレッスン室、電子ピアノ室、音楽室、手芸室、製作室、パソコン室、体育館、乳児保育室、図書室など専門的な知識・技術を習得するための設備は整っている。備品の購入、ピアノ調律は適宜行い、適切な学習環境を整えている。

(6) -②学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか

学内の実習施設については、カリキュラムに対応する内容を整えている。学外の実習施設については、単位実習基準を満たす実習先を確保している。

(6) -③防災に対する体制は整備されているか

火災防火の為に組織及び自衛消防隊の組織編成を行なっている。年1回の消防訓練においては教職員に対して消火器訓練も実施している。

○課題

- ・実習教室等の教育環境の整備。（常に最良の状態に保つ）

○今後の改善方策

- ・実習教室の機材・設備等は、必要に応じ補充や交換・調整を行っており、現在不都合は生じていないが、今後とも最新の技術習得のため、常に良い教育環境を整えて行く。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特に意見はありませんでした。

(7) 学生の受入れ募集

(7) -①学生募集活動は適正に行なわれているか

北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、募集開始時期・募集内容等、同会の定めた規則を遵守している。

(7) - ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

カリキュラムや就職実績など正確な情報を受験者に提供することを心がけ、入学案内の内容は毎年見直しをしている。また、公表する数字の根拠を明確にし、誇大広告にならないよう自己点検している。

(7) - ③学納金は妥当なものとなっているか

毎年、学科単位で経費をチェックし学納金の見直しを実施している。その際、他校の学納金とも照らし合わせ適正度を確認している。

○課題

- ・平成28年度入学生向けに、急遽2年課程こども学科を2コース制としたが、途中からの告知となるので、新たに設定した保育士コースをどのように高校生へ周知するかが課題。

○今後の改善方策

- ・高校生のニーズ合った学科の定員変更を検討中。

○各評価委員からの意見・指導

- ・保育士と幼稚園教諭免許取得を目指す者に対する定員が少なくなっているのであれば、新たな保育士コースをしっかりと集めることが重要と思われる。
- ・(質問) 保育者を目指す高校生は減っているのか。(回答) 18歳人口は年々減少しているので、保育者を目指す高校生も減っているが、他の分野に比べ減少の割合は多くない。

(8) 財務

(8) - ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

就職状況も良く卒業生も多数おり、保育現場や高校からの認知度も高く、ここ数年安定した入学生を確保できている。今後も保育者のニーズは高いと思われるため、中長期的に安定していると考ええる。

(8) - ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

予算・収支計画は設置法人の総務財務室で一括整備・管理している。学校から提出された予算書を基にチェック・アドバイスが行なわれ、理事会での承認後、執行されている。

(8) - ③財務について会計監査が適正に行なわれているか

私学振興助成法に基づく公認会計士(監査法人)による監査及び私立学校法に基づき、法人寄付行為第34条による監事による監査を実施し、この結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議委員会へ報告をしている。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特に問題ありません。

(9) 法令等の遵守

(9) - ①法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか

法令を遵守し、適切な運営を行っている。

(9) - ②個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか

個人情報に関しては、細心の注意をはらうよう職員に徹底周知している。就職情報等についての公表資料については、学生より同意書をいただいている。

(9) - ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

自己評価にて課題を発見し、改善方策を検討し実施している。

- 課題
 - ・特になし。
- 今後の改善方策
 - ・特になし。
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・特に意見はありませんでした。

(10) 社会貢献・地域貢献

(10)－①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
地域の子育て支援の一環及び学生の学びの場として「保専ひろば」を定期的に開催している。
(10)－②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
保育所、幼稚園、福祉施設などからのボランティア依頼は事務局が窓口となり、依頼があれば学生に周知、斡旋している。
(10)－③地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練を含む）の受諾等を積極的に実施しているか
近大姫路大学通信教育一般生の試験会場、スクーリング会場として校舎を提供している。

- 課題
 - ・特になし。
- 今後の改善方策
 - ・特になし。
- 各評価委員からの意見・指導
 - ・多くの学生にボランティアに参加してもらいたいが、積極的・自主的に行うことが基本であるため、学校側から強く勧めるのではなく、自主的に参加を促す指導をしてほしい。

- ② 今後の学校の取り組みについて
 - 各委員からの貴重なご意見、ご要望等を真摯に受け止め、今後本校における課題として、その改善方策を検討し教育体制を強化していきたい。

以上